

歯科医師のためのドーピング防止ガイド 2021

東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会

ドーピングとは、競技力向上や禁止物質使用の隠蔽を目的として、医薬品などを不正に用いることです。わが国でのドーピング防止規則違反の多くは、通常の治療行為や市販薬の服用により意図せず（うっかり）ドーピング禁止薬を使用し処分されるもので、適切な情報が提供されていれば違反となることを防ぐことができたと考えられます。

歯科で用いられる医薬品で禁止薬とされるものはわずかですが、競技者が治療を受けに来院された場合に、使用可能かどうかの判断の参考になるように、歯科関連医薬品についてドーピングに関する情報をまとめました。ご活用いただければ幸いです。

§ 禁止薬物と禁止方法

ドーピングについては、世界アンチ・ドーピング機構（WADA）が禁止表を作成・公表しており、その禁止表は原則1年に1回毎年1月1日に更新されます。

国内では、日本アンチ・ドーピング機構（JADA）ホームページ

(<https://www.playtruejapan.org/>) で関係資料を見ることができます。

禁止表に掲載されている物質はもちろん使用できませんが、禁止表に成分名の掲載が無くても禁止物質と構造や効果が類似する場合、禁止対象となることがあります。スポーツ選手に医薬品を使用される場合は常にご確認をお願いします。ただし、禁止薬であっても、治療上必要な場合は事前に治療使用特例（TUE）を申請し、承認されれば使用することができます。TUEの詳細については、JADA・医療従事者用サイト - をご参照ください。

(<https://www.playtruejapan.org/medical-staff/>)

■主な禁止薬：

蛋白同化薬

蛋白同化男性化ホルモンやその類似物質は、筋肉増強作用、またその副作用により健康に障害を生じるため禁止されています。成分表記されずに蛋白同化薬が含まれていた海外製サプリメントを使用してしまった選手がドーピング違反となったケースもあり、注意が必要です。

ペプチドホルモン、成長因子など

成長ホルモン・インスリン・エリスロポエチン（赤血球増殖因子）などが競技力を向上させるとして禁止されています。

利尿薬

急激な減量及び、体内の薬物の排泄を促進させて禁止物質の使用を隠蔽するため、利尿薬の使用は禁止されています。

デスモプレシン

抗利尿作用により血漿を増量させ、血中の禁止物質やヘモグロビンの濃度を薄めるため投与経路に関わらず禁止されています。デスモプレシンの類似物質であるフェリプレシンも禁止となりますが、歯科麻酔薬との併用における局所投与は禁止ではありません。従って、「歯科用シタネストーオクタプレシン」の使用は問題ありません。

興奮薬

中枢神経を刺激することにより、集中力や敏捷性の増加、疲労感の緩和、闘争心の増強を生じるため禁止となっています。アドレナリン（エピネフリン）、エフェドリン、メチルエフェドリンなど医療用医薬品、市販薬に広く用いられる薬剤が禁止されているため、注意が必要です。アドレナリン（エピネフリン）は局所麻酔薬との併用または単独での局所使用は許可されていますので、キシロカイン歯科用注などの使用は問題ありません。

麻薬

モルヒネやペチジン、フェンタニルなどの麻薬は禁止物質です。向精神薬であるペンタゾシン、ブプレノルフィンも麻薬として禁止物質となっています。但し、コデイン、トラマドール^注は、禁止物質ではありません。（注：トラマドールは自転車競技において競技連盟独自のルールにより競技会時の使用が禁止されています。）

副腎皮質ホルモン（糖質コルチコイド）

幅広い薬効を持ちさまざまな疾患の治療薬として使用されますが、2021年に禁止されているのは内服や静注、筋注、経直腸使用、**口腔内使用**です。**アフタゾロン口腔用軟膏のような口腔内軟膏の使用は世界アンチ・ドーピング機構より2021年3月22日より競技会時に禁止されると通知がありました。**また、関節内や関節周囲などへの局所注射は2022年1月1日より禁止され、2022年からは全ての注射経路が競技会時に禁止となる予定です。

吸入や皮膚、眼、耳、鼻、肛門周囲の疾患に対する局所使用は禁止ではありません。

静脈注射

静脈内注入および／または12時間あたり100mLを超える静脈注射は禁止されます。ただし、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床的検査のそれぞれの過程において正当に受ける静脈内注入は禁止になりません（静脈注射に使用する薬物に関しては別途禁止物質かどうかの確認が必要です）。

これら以外にも禁止の物質や方法があり、また特定競技のみで禁止されている物質もあります。詳細は2021年禁止表国際基準(https://www.playtruejapan.org/entry_img/2021list_prohibited_en.pdf)でご確認ください。

S 使用可能 医療用医薬品リスト（「薬価基準による歯科関係薬剤点数表」より、主な商品名を抜粋）

局所麻酔薬：オーラ注歯科用、歯科用キシロカイン、歯科用シタネストーオクタプレシン、スキヤンドネスト、ハリケイン、ビーゾカイン歯科用ゼリー

吸入麻酔薬：笑気ガス

歯科用軟膏・挿入剤：オキシテトラコーン歯科用挿入剤、テトラサイクリン塩酸塩パスタ、ペリオクリン歯科用軟膏、ペリオフィール歯科用軟膏

消炎鎮痛薬：アルボ、オステラック、オパイル、カロナール、キョーリン AP2 配合、ジソペイン、セレコックス、ソランタール、ソレトン、トラムセット（注：自転車競技においては、トラマドールが競技会時に禁止されています）、ナイキサン、ニフラン、ハイペン、バファリン配合錠 A330、ブルフェン、フロベン、ペオン、ボルタレン、ポンタール、ランツジール、ロキソニン、ロルカム、リリカ

抗生物質・抗菌薬（経口）：エリスロシン、オゼックス、オラセフ、クラビット、クラリシッド、ケフラル、ケフレックス、サワシリン、ジスロマック、ジョサマイシン、セフゾン、タリビッド、トミロン、バナン、ビクシリン、ビブラマイシン、フロモックス、ミノマイシン、メイアクトMS、ルリッド

抗真菌薬（経口）：イトリゾール、ファンギゾンシロップ、フロリードゲル経口用

健胃消化整腸薬：アルサルミン、ウルグート、エンテロノン-R、オメプラール、乾燥水酸化アルミニウムゲル、合成ケイ酸アルミニウム、酸化マグネシウム、セルベックス、タケブロン、タフマックE配合、炭酸水素ナトリウム、天然ケイ酸アルミニウム、ビオフェルミン錠・配合・R、ビフィスゲン、ベリチーム配合、マーズレンS 配合、ミヤ BM、ムコスタ、ラックビー微粒 N・R、レベニン

トローチ・含嗽薬：SP トローチ、アズノールうがい液、イソジンガーグル液、含嗽用ハチアズレ顆粒、デンターグル含嗽用散、ネオステリングリーンうがい液

口腔用剤（外用）：サリベートエアゾール

抗不安・催眠鎮静剤：アモバン、エバミール、サイレース、セルシン、ダルメート、デパス、ネルボン、ハルシオン、ブロバリン原末、ベルソムラ、ベンザリン、ホリゾン、マイスリー、リーゼ、リスミー、ルネスタ、レンドルミン、ロゼレム、ロラメット、ワイパックス

抗ヒスタミン薬：アレルギン、ゼスラン、タベジール、ニポラジン、ポララミン

止血薬：アドナ、ケーワン、トランサミン

その他：テグレートール

※これらの医薬品の後発医薬品についても使用可能です。また、他にも使用可能薬はあります。
※上記は2021年5月時点の使用可能薬です。

§ 市販薬・漢方薬・サプリメントについて

市販薬・配置薬：かぜ薬や鼻炎の治療薬の多くに、禁止物質であるエフェドリン、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリンが含まれていますので注意が必要です。

漢方薬：漢方薬は、いくつかの生薬を配合したものです。生薬の中には、明らかに禁止物質が含まれているものがあり、例として、丁子、附子、細辛、南天実、呉茱萸にはヒゲナミン、麻黄にはエフェドリンやメチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、ホミカにはストリキニーネ、そして前述の滋養強壮薬には蛋白同化作用を示す成分が含まれていますので、その生薬が配合された漢方薬は使用できません。また、半夏にも微量ですがエフェドリン類が含まれるので、注意が必要です。例えば、麻黄を含む葛根湯、小青竜湯、防風通聖散などの漢方薬は使用できません。一方、生薬はすべての含有成分が明らかになってはいませんので、禁止物質が含まれているかどうかは不明であり保証できません。従って、漢方薬はなるべく使用しないことをおすすめします。

サプリメント：サプリメントは食品であり全成分表示の義務がありませんので、使用可能かどうかの明確な判断ができません。サプリメントの摂取をする前に食生活の見直しを行うなど、サプリメントが必要かご再考ください。

§ 問い合わせ先

東京都薬剤師会 ドーピング防止ホットライン

FAX 03-3295-2333 TEL 03-3295-9532 [受付時間 9:00～17:00 平日のみ]

公益社団法人 東京都薬剤師会 薬事情報課

〒101-0054 千代田区神田錦町 1-21

URL <http://www.toyaku.or.jp/>

コピーしてご送付ください

ドーピング禁止薬に関する問合せ用紙(薬剤師会ホットライン用)

東京都薬剤師会 薬事情報課 宛

問い合わせ日時 : 年 月 日
所 属 : 氏 名 :
電話番号 : F A X 番号※ :
メールアドレス※ :

※ 回答はFAX またはメールで行いますので、FAX 番号・メールアドレスを必ずご記入下さい。

質問者の基本情報

- ① 質問者の分類 (該当するものに○をつけてください)
(医師・歯科医師・薬剤師・看護師・AT・コーチ・選手・その他 ())
② 医薬品を使用される方の所属競技団体名 ()

使用者の基本情報 (②、③については、該当するものに○をつけてください)

- ① 薬を使用する方の性別 (男性・女性)
② 薬を使用する方の年齢 (10・20・30・40・50・60・70・80・90)才代
③ 薬の使用状況 (未使用・使用中・過去に使用)

問合せ対象医薬品

製品名(会社名)	備 考
1. ()	
2. ()	
3. ()	
4. ()	
5. ()	

※ 医薬品名はフルネームで正確に記載して下さい。

※ 食品・健康食品・サプリメント・化粧品等については、医療上必須のものではない、成分表示が正しい保証がないといった点等から判断できません。

※ 備考欄は、その医薬品に関して特別な事項がある場合にご記入下さい。

※ 内容によっては、回答に時間がかかることがありますので、ご了承下さい。